

地元意見交換会を開催しました

例年ツルが飛来する地域(楠島地区、森沢地区、間地区)の主に農家の皆さんに、当会と国土交通省中村河川国道事務所とが協働して進めている「ツルの里づくり」(越冬環境づくり)のこれまでの取り組み内容等について説明し、ご意見をお聞きする会を、令和3年10月に開催しました。参加した方々からは、農業を営む者としての率直な意見、よりよい餌場環境にするための提案などをいただきました。

私たちは、取り組みの推進によって地域の人々の生活に悪影響が生じてはいけないということを肝に銘じており、今後も人とツルとが共生できるあり方を皆さんと共に考え、実践していきたいと思っています。



楠島地区(10月9日)



森沢地区(10月24日)



間地区(10月28日)

四万十ツルの観察マナーを作成しました

このたび、当会も参画している「四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会」(事務局:中村河川国道事務所)で「四万十ツルの観察マナー」を作成しました。ツルの保護に向けた取り組みへのご協力をお願いいたします。

四万十ツルの観察マナー

四万十川や中筋川の周辺には、毎年10月下旬から3月上旬にツルが飛来します。ツルは警戒心が強く、人や犬などが近づいたりすると驚いて逃げようとするので、ツルが安心して過ごせるように、以下のマナーを守っていただきたいと思います。

- 1 観察は200m以上離れて、双眼鏡等を使いましょう
飛来初期である10月下旬～11月中旬は特に警戒心が強いので、大人数での観察は300m以上離れてください
- 2 ツルが苦手な大きな音や、人工の光を出さないようにしましょう
車で通行中にツルが近くにいたら、止まらずにゆっくり通り過ぎましょう
- 3 犬の散歩はリードをつけて、ツルに近づかないようにしましょう
通行の妨げにならないようにしましょう
- 4 ツルを観察するための専用駐車場はありません
- 5 私有地や農地に無断で立ち入ったり、農作業を妨げないようにしましょう
- 6

『四万十市のツル』を刊行しました

令和3年11月24日、四万十市に飛来するツルの生態や保護活動について、子どもたちにもわかりやすく紹介した小冊子(B5サイズ、24ページ)を刊行しました。

11月25日には、中平四万十市長を訪問し、市内の全小中学校の5・6年生や東中筋中学校の生徒さんへの配布、一般の方向けとして市役所への設置などをお願いしました。当会事務局(中村商工会議所)でも配布しています。是非ご覧ください！



四万十

つるだより

人と自然の共生する
「ツルの里」をめざして

Vol.27 ●発行日/令和4年2月10日 ●発行/四万十つるの里づくりの会
http://www.nakamura-cci.or.jp/doc/tsuru/

※本誌掲載のツル類の写真は、当会委員の夕郎氏、国土交通省中村河川国道事務所からご提供いただいたものです。

江ノ村箇所にたくさんのツルが飛来！

令和3年度、四万十市内では、11月11日のナベヅル2羽の飛来を皮切りに、12月11日までの約1カ月間(未確認の日も含む)、ツルの姿を見ることができました。

このうち17日間は、当会が平成19年度から越冬環境づくりを行い、四万十市立東中筋小学校、中学校の子どもたちと一緒に「ツルの自然体験学習会」でデコイ(ツルの模型)を設置した江ノ村箇所にツルが利用し、私たちの取り組みの成果を実感できた年となりました。特に、11月13日には16羽の群れが飛来し、その後8羽が合流して、合計24羽となり、観察していた私たちも感無量。デコイの効果は極めて高いことがわかりました。

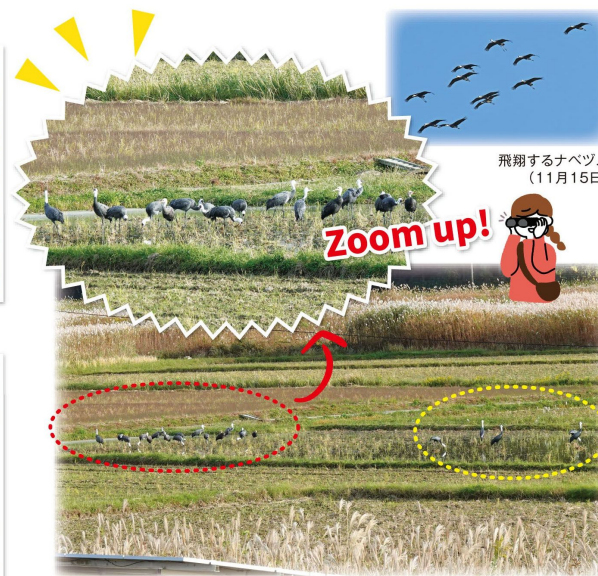
また、長年の調査結果から、四万十川の砂州をねぐらとして使えない時の代わりのねぐらの確保が課題となっていました。そこで、本年度はデコイを置いた水田に水を張って見たところ、上記の24羽が一夜を過ごしてくれました。このほか、1羽～数羽の群れが10日以上夜を過ごした可能性もあり、課題解決に向けた第一歩となりました。



マナヅルは1日だけ確認(11月25日)。
土佐くろしお鉄道の列車との貴重なショット！



デコイ設置水田で、頭を体に乗せて眠る1羽のナベヅル
(11月18日) ※赤丸:ナベヅル



飛翔するナベヅル
(11月15日)

デコイ設置水田にナベヅル16羽の群れが入った瞬間(11月13日)
※赤丸:ナベヅル、黄丸:デコイ

四万十つるの里に関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会 事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内

tel:0880-34-4333 / fax:0880-34-1451

mail:nakacci2@mocha.ocn.ne.jp



一般財団法人
セブン-イレブン 記念財団

この会報は、一般財団法人セブン-イレブン
記念財団の助成を受け、発行しています。